報道関係者各位

PRESSRELEASE
2026.11.11
レバウェル株式会社

【イベントレポート】
女優・奈緒さんとお笑いコンビ・ミキさんが登壇！
「同じ目線Kneeプロジェクト」メディア発表会・
『同じ目線Kneeサポーター』贈呈式を開催

11月11日「介護の日」に合わせ、
介護職が利用者と目線を合わせるために行う「しゃがむ動作」に着目



レバウェル株式会社が運営する、介護職に特化した求人・転職/派遣サービス「レバウェル介護」（ https://job.kiracare.jp/ ）は、2026年11月11日（水）、介護職の皆さまを応援するとともに、より多くの方々に介護への理解や関心を深めていただくための取り組みとして、レバウェル介護「同じ目線Kneeプロジェクト」メディア発表会・『同じ目線Kneeサポーター』贈呈式を開催しました。

イベントには、女優の奈緒さん、お笑いコンビ・ミキの昴生さん・亜生さんがゲストとして登場。トークセッションでは、今回実施した実態調査の結果や、介護職経験者である亜生さんの実体験をもとに、介護現場でのエピソードや介護職への思いについて語りました。さらに、本プロジェクトに合

わせて制作された『同じ目線Kneeサポーター』を奈緒さんから介護職の方へ贈呈するセレモニーも行われ、日々介護の現場で働く皆さまへエールを送りました。

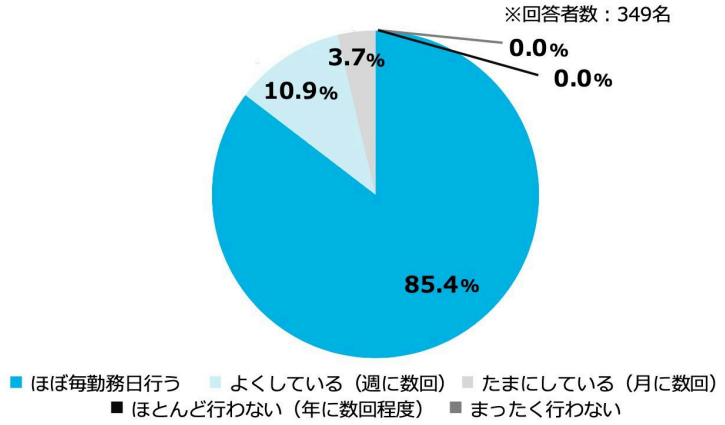
■「同じ目線Kneeプロジェクト」始動の背景

本取り組みは、11月11日の「介護の日」をきっかけに、日々、介護の現場で働く介護職の皆さまを応援するとともに、より多くの方々に介護への理解や関心を深めていただくことを目的としています。今回は、介護職が日常的に行う「利用者と目線を合わせるためにしゃがむ」という何気ない動作に着目。レバウェル介護は、利用者一人ひとりと向き合い「同じ目線」に立つ介護職の皆さまに敬意を示すとともに、これからも寄り添い続けたいという思いを込め、同プロジェクトを発足いたしました。

1.介護職の8割超が1日に平均22回も利用者と目線を合わせるためしゃがむと回答

同プロジェクトの立ち上げにあたり、現役の介護職349名を対象に行った実態調査を紹介。普段の業務の中で、利用者と目線の高さを合わせるためにしゃがむ頻度を尋ねたところ、「ほぼ毎勤務日行う」と回答した人が85.4%にのぼりました。また、通常の勤務日における動作の回数は1日平均22回と回答されており、利用者と目線を合わせるために、1日に何度もしゃがんでいることが明らかになりました。

普段の業務の中で利用者と目を合わせるために
しゃがむ・腰を落とす動作をどの程度行いますか。



2. 介護職の約8割が利用者のために目線を合わせると回答！約9割が目線を合わせることで利用者の様子に変化を実感

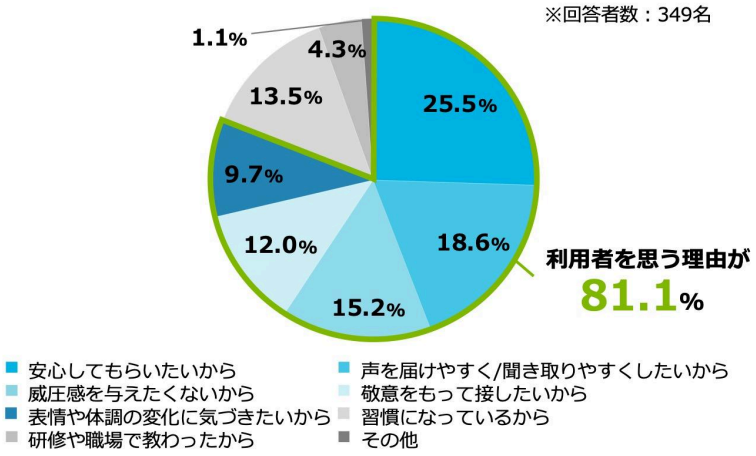
続いて、利用者と目線の高さを合わせる理由について尋ねたところ、「安心してもらいたいから」という回答が25.5%で最多となり、「声の届けやすさ」「威圧感を与えたくない」「敬意を表したい」「表情や体調の変化に気づくため」といった利用者を思う理由を合わせると81.1%にのぼりました。

また、目線を合わせることで利用者の様子に変化を感じたことがあるかを尋ねたところ、87.7%が「ある」と回答しました。さらに、実際にしゃがんで目線を合わせたことで印象に残っているエピソードとして、「何も話さない方が話すようになった」「あまり笑顔が見られない利用者さんがよく笑ってくれる」といった利用者の前向きな変化についての声が多く寄せられました。

これらの結果から、介護職が日々何気なく行っているしゃがんで目線を合わせる動作には、利用者の気持ちを大切にし、一人ひとりに寄り添おうとする思いがあることがうかがえます。

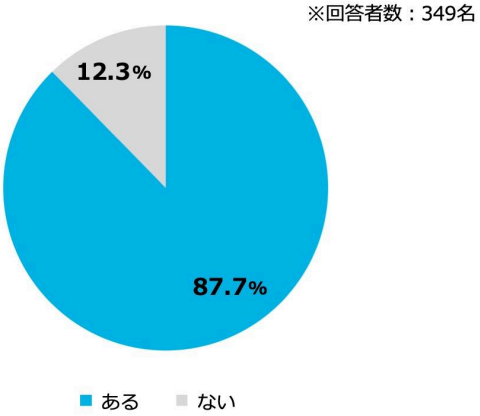
目線の高さを合わせるのは、どのような思いからですか。

※回答者数：349名



目線を合わせたとき、
利用者の様子に変化を感じたことはありますか。

※回答者数：349名

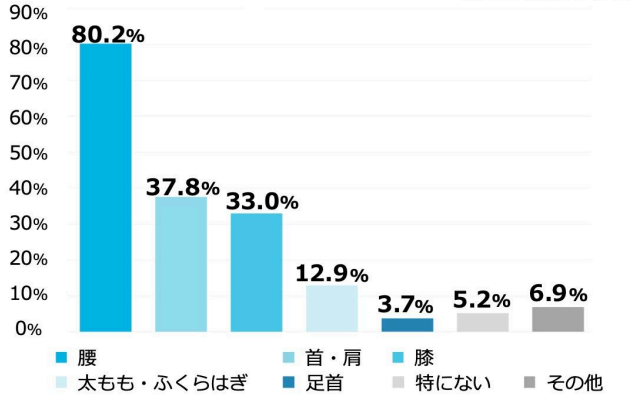


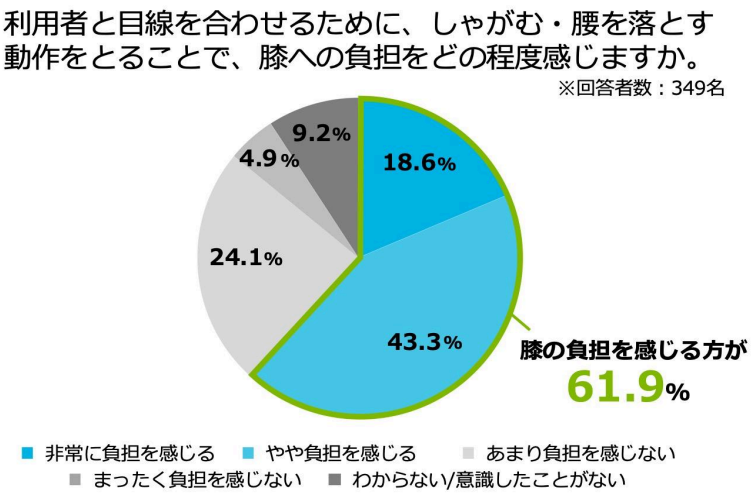
3. 利用者に寄り添う一方で、介護職の約**6**割が「しゃがむ動作による膝への負担」を実感

日々しゃがむという動作を行っている介護職の皆さまが、その動作によって感じている負担についても調査したところ、介護の仕事全般で身体的な負担や疲労を感じる部位は「腰」が80.2%で最も多かった一方で、しゃがむ・腰を落とす動作では61.9%が「膝に負担を感じる」と回答し、日常的に繰り返す動作が身体的な負担につながっている実態が明らかになりました。

介護の仕事全般で、
身体的な負担や疲労を感じる部位はどこですか。

※回答者数：349名





■ 介護職経験者であるミキ・亜生さんが「目線を合わせることで、話してくださる内容が変わる」と介護職時代を振り返る

ゲストの奈緒さん、お笑いコンビ・ミキの昴生さん、介護職としての勤務経験を持つ亜生さんと共に、介護現場における「目線を合わせるためにしゃがむ」という行為に込められた思いやりをテーマに、トークセッションを実施しました。『しゃがむ・腰を落とす動作』に関する実態調査の結果について、介護職の約8割がほぼ毎勤務日、利用者と目線を合わせるためにしゃがむという実態が明らかになると、奈緒さんは「想像していた以上に多い回数だなと思いました。」と驚きの表情を見せました。また、介護職経験者の亜生さんは、利用者と目線を合わせる理由について「しゃがんだまま作業することも多く、20分ぐらいしゃがんだままということもあるので、22回とみると結構大変ですよね。」と、自身の経験を交えながら、介護現場における膝への負担の大きさについて語りました。

続けて、利用者を思いやるために目線を合わせることについて聞くと、「本当に目を合わせることによって話していただく内容が変わったりするので、大事だと思います。」と自身の介護職時代の経験を振り返りながら語りました。これを受けて奈緒さんは、「利用者の変化に気づく介護職の方々は、どれだけ普段から寄り添ってらっしゃるんだろうというのが、すごく伝わるので素敵だなと思います。日常生活において自分もそうでありたいです。」と日々利用者に寄り添う介護職への敬意を示しました。







■「同じ目線Kneeサポーター」を奈緒さんより贈呈

トークセッションに続いて、「同じ目線Kneeプロジェクト」の取り組みとして、「膝を守る」だけでなく利用者と目線を合わせて寄り添う介護職の方々の思いやりを支えたいという思いから制作した膝サポーター『同じ目線Kneeサポーター』をお披露目しました。実際に膝サポーターを着用した昴生さんは、「屈伸するときなど、膝を使うときにしっかりと支えてくれそうですね！（膝の支えがあると）介護の現場だけでなく、漫才のマイクの上げ下げをするときも使えそう（笑）」としゃがむと、亜生さんが「マイクはそこまで下げへん！」と笑いを絡めつつ、膝サポーターの利便性をコメントしました。





その後、訪問介護の現場で16年間の経験を持つ、アースサポート株式会社 訪問介護指導リーダーの田中藍子さんが登壇し、膝サポーターの贈呈式を実施しました。奈緒さんが介護職の方々への感謝と応援の気持ちを込め、『同じ目線Kneeサポーター』の贈呈を受けた田中さんは「これからも目線を合わせて、利用者の方をしっかりサポートしていきたいと思います。」と今後の現場への思いを語りました。奈緒さんは「毎日利用者の方を思いやって寄り添う、誰かを支えるお仕事なので、本当に素敵だなと心から尊敬しています。少しでも皆さんの思いと優しさを社会に伝えられるように、一生懸命頑張ります！」と介護職の方々への敬意と意気込みを語りました。亜生さんは「介護職は素晴らしい職業で、ダイレクトにありがとうと言ってもらえる数少ない仕事だと思います。利用者の方が笑顔になるのも、もちろんですけど、このような介護職の方をサポートするアイテムが出てきて、お互いが楽しくできればと思っています。応援しております！」と介護職の方々へエールを送りました。





■ 本プロジェクトをきっかけに、介護職への継続的な支援を表明



レバウェル株式会社取締役社長の小西 東が登壇し、本プロジェクトの発足背景や今後の展望について発表しました。年間2,000件以上の介護現場への取材を通じて、介護職が利用者と目線の高さを合わせるために「しゃがむ・腰を落とす」という行動に着目したことを明かし、「利用者と目線を合わせるためにしゃがむという、介護職の方々が日々の業務の中で自然に行っている思いやりに光を当てたい」と思いを語りました。また、本イベントでの膝サポーター贈呈を第一歩に、希望する介護職の方への配布を予定していることを発表しました。レバウェル介護は、本プロジェクトを皮切りに、「誰かを支える皆さま自身の『支え』となれるよう、介護職一人ひとりに向き合い、介護に関わる誰もが輝ける業界の実現に向けて、これからもサポートし続けていきたい」と今後の展望を力強く語りました。

■「同じ目線Kneeサポーター」応募概要

＜配布概要＞

・配布内容：『同じ目線Kneeサポーター』
・応募期間：2026年11月11日（水）12:00～12月4日（金）23:59
・お届け時期：2027年1月中旬頃（予定）
・費用：無料（送料含む）

＜応募条件＞
・日本国内の介護施設・事業所にお勤めの介護職の方
※ご使用後に、感想のご提供をお願いする場合がございます。

＜応募フォーム＞
下記フォームよりお申し込みください
https://x.gd/7MSRP

・ご応募いただいた方々から抽選で選定させていただきます
・選定結果および選定理由に関するお問い合わせにはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承ください

■ イベント実施概要

日　時：2026年11月11日（水）10:00～10:50（受付開始 9:30）
会　場：レバウェル株式会社 渋谷桜丘支店 カフェスペース
　（〒150-6226 東京都渋谷区桜丘町1番1号 渋谷サクラステージSHIBUYAタワー26階）
ゲスト：奈緒さん、ミキさん
登壇者：レバウェル株式会社 取締役社長 小西 東 / アースサポート株式会社 訪問介護リーダー 田中 藍子 さん
内　容：主催者挨拶 / ゲスト登壇 / トークセッション / 膝サポーターお披露目 / 膝サポーター贈呈式 /フォトセッション

■ 調査概要

調査対象：全国の介護職従事者
調査時期：2026年10月21日～10月26日
調査方法：インターネット調査
有効回答者数：349名
調査主体：レバウェル株式会社
調査委託先：外部調査会社

■ 登壇者プロフィール



奈緒（なお）
女優。福岡県生まれ。
2018年、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」でヒロインの親友役に抜擢、2019年公開の『ハルカの陶』で映画初主演を果たす。近作に映画『死ねばいいのに』『シャドウワーク』、ドラマ『東京サラダボウル』、舞台『大地の子』など。2026年4月には、初のフォトエッセイ『いつか』を刊行。公開待機作に主演映画『かすかな彼を抱きしめて』（山西竜矢監督・2027年1月15日公開）、主演映画『あをの情』（石川寛監督・2027年公開）がある。



ミキ 亜生（あせい）・昴生（こうせい）
京都府出身の兄弟漫才コンビ。兄・昴生（こうせい）と弟・亜生（あせい）により2012年4月に結成。吉本興業所属。2016年「第46回NHK上方漫才コンテスト」優勝。「M-1グランプリ」では2017年に3位、2018年に4位と2年連続で決勝に進出。2019年4月より東京に活動拠点を移し、テレビ・ラジオ・舞台のほか、全国ツアー「ミキ漫」など幅広く活躍している。

＜ミキさんの宣材写真の取り扱いに関して＞
※©入り宣材写真に関しまして、WEB上でのご使用のみと限らせて頂いております。番組・紙媒体上での使用はご遠慮願います。
※©入り宣材写真に関しまして、©の表記が判別できる程度の縮小・拡大は問題ありませんが、トリミング等の加工につきましては一切のご遠慮を頂いております。万が一、何かしらの不都合があり加工をご希望される際には、お手数ですが再度ご連絡願います。
※尚、当該データにつきましては、随時更新するものですのでいかなる場合におきましても転用・流用・二次使用は一切お断りさせて頂いております。今回の使用用途のみの許可になりますので、ご使用後は必ず破棄して頂き、次回ご使用の際は再度ご申請頂けますようお願い申し上げます。

■ レバウェル介護について

レバウェル介護は、介護職に特化した求人・転職/派遣サービスです。日本の超高齢化社会に伴い、介護需要が年々高まる中、介護人材の確保と定着は大きな社会課題となっています。レバウェル介護では、専任アドバイザーが、全国の介護施設・病院・在宅介護事業所の豊富な求人情報の中から、求職者のスキルや希望条件に合った最適な職場をご提案。スピーディーかつ丁寧なサポートで、一人ひとりの転職を支援します。月間ユーザー数は56万人以上、掲載求人数は日本最大級の10万件以上（*1）にのぼります。（*1：2026年3月時点）

レバウェル株式会社（ https://corp.levwell.jp/ ）
レバウェル株式会社は、「この国のウェルネスを支える」をビジョンに掲げ、医療・福祉・ヘルスケア業界に特化した人材関連事業およびSaaS事業を展開しています。日本の超高齢化社会において深刻化する労働力不足に対し「人材供給・最適配置」「新たな働き手の確保」「生産性向上」の観点から課題解決を支援し、誰もが安心して医療・福祉・ヘルスケアサービスを受けられる社会の実現に貢献しています。
レバウェル株式会社は、レバレジーズ株式会社のグループ企業です。

▽『レバウェル』 医療・介護・保育・ヘルスケア業界に特化した求人・転職プラットフォーム
https://levwell.jp
▽『レバウェルスクール介護』 介護資格取得スクール
https://job.kiracare.jp/info/school/
▽『わんコネ』 医療福祉施設向け入退院支援SaaS
https://one-conne.com/

レバレジーズ株式会社（ https://leverages.jp/ ）
本店所在地 ： 東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号　渋谷スクランブルスクエア24階 /25階
代表取締役: 岩槻　知秀
資本金　　：5,000万円
設立　　：2005年4月
事業内容　:IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業、SaaS事業、M&Aコンサルティング事業 など

「社会課題の解決」を軸に、IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など、国や業界をまたいだ様々な領域でサービスを展開。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2025年度は年商1700億※を突破しました。業界を絞らないポートフォリオ経営と、各分野のスペシャリストが集うインハウスの組織体制で、時代を代表するグローバル企業を目指します。（※会計基準変更後）

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレジーズ株式会社　広報部
TEL：03-5774-2900　MAIL： pr@leverages.jp